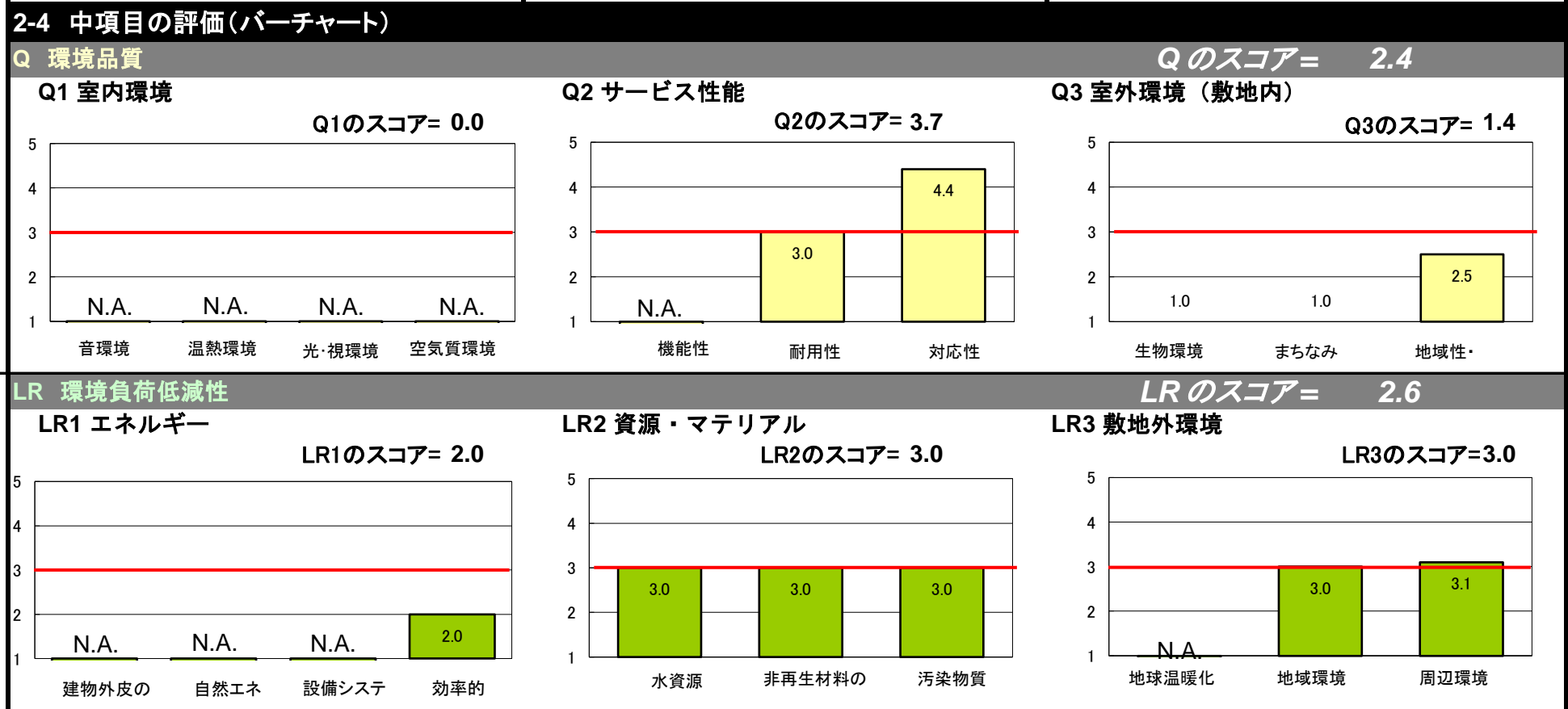
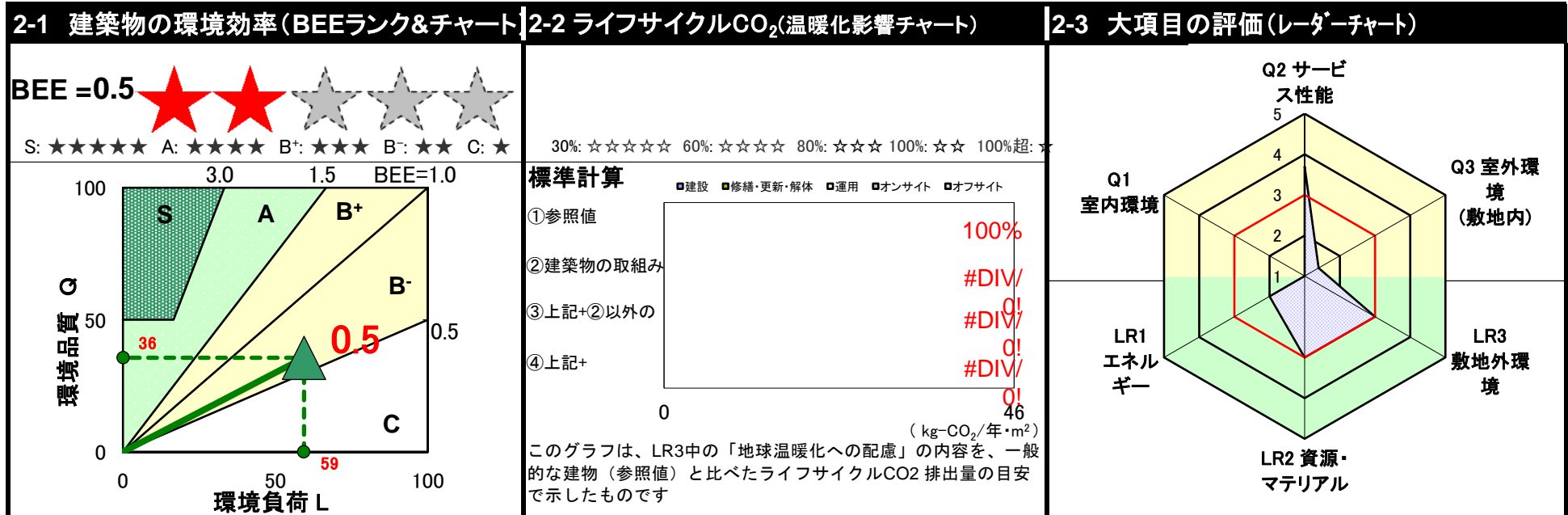


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社Nホールディングス 弥富橋 第3倉庫	階数	地上1階
建設地	愛知県弥富市楠1丁目129番	構造	S造
用途地域	法22条地域、市街化区域、臨港地区、津波災害警戒区域	平均居住人員	3人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,040時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年9月 予定	評価の実施日	2023年1月25日
敷地面積	4,227 m <sup>2</sup>	作成者	山本 康博
建築面積	3,076 m <sup>2</sup>	確認日	2023年1月27日
延床面積	3,076 m <sup>2</sup>	確認者	山本 康博



### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">N.A</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <div style="text-align: center;"> </div> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td style="text-align: center;">0.0 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td style="text-align: center;">0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.0 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.0 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">3.4</p> <div style="text-align: center;"> </div>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <div style="text-align: center;"> </div> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>〈外装材に使用した地域性のある材料〉</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉</td> <td>なし</td> </tr> </table>	〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし	〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし
〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし				
〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階									
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数				
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.4</b>	
<b>Q1 室内環境</b>											
<b>1 音環境</b>											
1.1 室内騒音レベル				3.0	-	-	-	-	-	-	
1.2 遮音											
1 開口部遮音性能				-	-	-	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	3.0	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	3.0	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	3.0	-	-	
1.3 吸音				-	-	-	-	3.0	-	-	
<b>2 温熱環境</b>											
2.1 室温制御											
1 室温				3.0	-	-	-	3.0	-	-	
2 外皮性能				3.0	-	-	-	3.0	-	-	
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御				3.0	-	-	-	3.0	-	-	
2.3 空調方式				3.0	-	-	-	3.0	-	-	
<b>3 光・視環境</b>											
3.1 昼光利用											
1 昼光率				3.0	-	-	-	3.0	-	-	
2 方位別開口				-	-	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備				3.0	-	-	-	3.0	-	-	
3.2 グレア対策											
1 昼光制御				5.0	-	-	-	3.0	-	-	
3.3 照度				3.0	-	-	-	3.0	-	-	
3.4 照明制御				3.0	-	-	-	3.0	-	-	
<b>4 空気質環境</b>											
4.1 発生源対策											
1 化学汚染物質				3.0	-	-	-	3.0	-	-	
4.2 換気											
1 換気量				3.0	-	-	-	3.0	-	-	
2 自然換気性能				3.0	-	-	-	3.0	-	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	-	-	-	3.0	-	-	
4.3 運用管理											
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	-	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御				3.0	-	-	-	-	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>						0.43					<b>3.7</b>
<b>1 機能性</b>											
1.1 機能性・使いやすさ											
1 広さ・収納性				3.0	-	-	-	3.0	-	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-	-	3.0	-	-	
3 バリアフリー計画				3.0	-	-	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性											
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	-	-	-	3.0	-	-	
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	-	-	-	
3 内装計画				3.0	-	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理											
1 維持管理に配慮した設計				3.0	-	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-	-	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>0.5</b>	<b>3.0</b>	0.52				<b>3.0</b>	
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>0.4</b>	<b>3.0</b>	0.48					
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80					
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>0.3</b>	<b>3.1</b>	0.33					
1 躯体材料の耐用年数				-	3.0	0.25					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				-	3.0	0.25					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	5.0	0.10					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	-	-					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	3.0	0.17					
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.25					
2.4 信頼性				<b>0.1</b>	<b>2.7</b>	0.19					
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.25					
2 給排水・衛生設備				3.0	-	-					
3 電気設備				3.0	3.0	0.25					
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.25					
5 通信・情報設備				3.0	2.0	0.25					

床材に長期耐久性の硬質フェロコン仕上げを採用

3 対応性・更新性				0.4	4.4	0.48	-	-	-	4.4
3.1 空間のゆとり				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		平均階高:7.525m	-	5.0	0.60	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		壁長さ比率=外周壁24.01m/専用面積3,140.14㎡=0.076	3.0	5.0	0.40	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			1階床積載荷重=10,000N/㎡	3.0	5.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.6	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②		-	-	-	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	-	-	-	-	-	
3	電気配線の更新性		露出配線を採用	3.0	5.0	0.17	-	-	-	
4	通信配線の更新性		露出配線を採用	3.0	5.0	0.17	-	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57	-	-	-	1.4
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	1.0	0.40	-	-	-	1.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	2.6
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	2.0
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	-	-	-	-	-	
2 自然エネルギー利用				3.0	-	-	-	-	-	
3 設備システムの高効率化			BEI=	3.0	-	-	-	-	-	
4 効率的運用				1.0	2.0	1.00	-	-	-	2.0
集合住宅以外の評価				1.0	2.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	1.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	3.0
1 水資源保護				0.1	3.0	0.15	-	-	-	3.0
1.1 節水				3.0	-	-	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	1.00	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	-	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.0	0.63	-	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	土間下にリサイクル砕石を採用	3.0	1.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	外壁仕上げに珪藻土PBを採用。	3.0	5.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			-	3.0	1.00	-	-	-	
3	冷媒			3.0	-	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		①	#DIV/0!	-	-	-	-	-	-	-
2 地域環境への配慮				0.5	3.0	0.50	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	適切な駐車スペースを確保している。	-	5.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.5	3.1	0.50	-	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	3.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.7	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		広告物照明をおこなっていない。	-	4.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>N. A</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.4</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.4	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:0%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。
Q1 室内環境	計算対象外
Q2 サービス性能	階高を高くすることにより室内環境にゆとりを持たせ、空間の自由さを確保した。
Q3 室外環境(敷地内)	隣接建物と外壁仕様を同等の材質を採用することで、周囲の建物とのバランスを調和させた。
LR1 エネルギー	照明器具算定においてLEDを採用し、またタイマーを採用することによりエネルギー消費低減に努めた。
LR2 資源・マテリアル	リサイクル資材を採用することで資源確保に努めた。
LR3 敷地外環境	照明は光害対策ガイドラインのチェックリストにて確認している。
その他	廃棄物の分別収集、分別監視・専門工事別回収をすることにより廃棄物発生抑制に努めます。